
IS<インフィニット・ストラトス> -世界を玩具に遊ぶ者-

イクリプス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS>インフィニット・ストラトス< - 世界を玩具に遊ぶ者 -

【Nコード】

N3947BA

【作者名】

イクリプス

【あらすじ】

IS>インフィニット・ストラトス<二次創作サブ連載、ギャグ担当です。基本的には篠ノ之陣営の一夏達が回りを振り回すだけの話ですが、どうぞよろしく

プロローグ（前書き）

熱い声援（？）にお答えして、短編から連載にのし上がりました本小説。

一応サブ扱いなので更新は不定期ですが、できるだけ三作品を順番に投稿していくという形をとるつもりなので、まあ気長にお待ち下さい。

ブローグ

理不尽を感じた事など、たかが15年生きた程度の人生の中でも幾らでもあった。

だが、これ程の……怒りを通り越して呆れすら感じる程の理不尽は初めてだ。

「くうっ……きゃあっ!!?」

代表候補生としての意地、オルコット家頭首としての矜持、自身の負けず嫌い。

そういったものを原動力に努力を重ねて鍛え上げた己が技量が、全くといっていいほど通じない。

そんな、悪夢。

「……終わりか？」

「ぐっ……」

自分ばかりがボロボロで組み敷かれ、しかも詰まらない、或は期待ハズレと言わんばかりの視線で見下ろされるその屈辱。

相手の戦い方が機体性能に頼ったものでは無かったのが……相手の努力が自身の努力を上回っていたいたというのがせめてもの救いだ
が、これが機体性能に頼っただけの初心者に負けたとなれば流石に泣けてくるというものだ。

「……参りましたわ」

「……まあ、流石は代表候補生、といったところだが……そこまでだな」

「う……」

色々と言いたい事もあるが、彼にとって自分がその程度の存在でしかないというのは変えようの無い事実であり、実際、自身の課題となっていたビットの操作中の硬直を突かれて負けたのだから、あながち彼の言い様も間違いでは無い。

間違いでは無いのだが……だが、だからこそ真正面からソレを指摘されるとかなり”来る”ものがあるのも事実で……しかし、己の不甲斐無さが原因なのだからと、何かに当たり散らす事も出来ず、沸き上がる苛立ちをどう処理すべきか判断に迷った。

「……フフツ、気に入らないって顔してるな」

「え……、あ、いえ、これはそ「それでいい」……え？」

図星を突かれ、慌てて何か言い訳を紡ごうとして、しかしそれが出来ずに四苦八苦する自分に、組み敷いたままの姿勢で男が笑いかける。

その笑みは心底愉快そうで……しかし嘲笑の類では無い不思議な笑みだった。

「強くなれ、オルコット。そして俺を愉しませろ」「あ……」

笑みの意味を測りかねている内に、彼はそう宣ってピッドへと飛び去って行くのだった。

今にして思えば、既にこの時点で彼に……織斑一夏に自分は籠絡されていたのではないかと、セシリア・オルコットは語る。

出合いは始業式から一日遅れのある日の事、一緒に転入してきた彼の幼なじみ共々、一般生徒の様な初々しさも無く、自分の様な代表

候補生に有りがちな国の威信を背負う者の気迫も無い。

なのに、何故が大きく感じる……そんな、異彩を放つ男だった。男のクセにISを動かせるという時点で十分異常なのだが、彼らのバックにいる人物が人物だけに、彼が……彼だけが唯一男性の身でISを動かせるというのはある意味当たり前の事態ではあったが、彼の異彩さはソレとは別にあつた様に思える。

「今朝初めて顔を見た時には、随分無愛想な方だと思いましたが……」

今、頭の中で顔を思い浮かべている男がピッドに去ってから遅れること数秒、セシリアも自分が発進したピッドに戻り、機体を待機状態に戻して汗を拭っていた。

「……無愛想、の方がまだマシと見るべきだったのか、判断に困る殿方ですね」

名前だけの自己紹介の時点までは無愛想だった彼も、意外と付き合いが いいのか、それとも問い掛けられた質問がたまたま彼の琴線に触れただけだったのか、喜々としてその問いに答える様はまるで別人の様だったと、今にして思う。

彼とその幼なじみの語る内容に度胆を抜かれて気付かなかったが、多分、彼らは面白い事に飢えているのだ。

だから、本来隠しておくべきの様な……聞いた側からすれば隠して置いて欲しかった様な内容の裏話を暴露しまくり、その内容に驚く皆の顔を見て愉しんでいたのだらうと、今だからこそ……彼と戦った後だからこそ解った。

彼にとって……彼らにとってISが玩具でしかないというのも、つ

まりはそういう事なのだろうと。

セシリアとて外国からこの日本に代表候補生としてIS学園に派遣されている身である。

国家間での文化や価値観の相違にもある程度理解がなければ務まらぬ立場故に、これもその類の事なのだろうと、思う事も出来なくは無。

出来なくは無いのだが……しかし、こうも思わずにはいられなかった。

「もう少し、空気を読んで欲しいとは思いますが……まあ、無理なのでしょうね」

…と。

プロローグ（後書き）

次回、短編の加筆修正版を第一話として掲載予定。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3947ba/>

IS<インフィニット・ストラトス> -世界を玩具に遊ぶ者-

2012年1月10日10時45分発行